

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【 愛知県立一宮特別支援学校 】

1 実践テーマ	【 I・V 】
2 実施対象者	小学部ABスタディ 12名 Cスタディ22名 中学部ABスタディ 16名 Cスタディ18名 高等部ABスタディ 25名 Cスタディ16名
3 展開の形式	学校における活動 教科名 小学部：体育、自立活動 中学部：保健体育、総合的な学習の時間、自立活動 高等部：保健体育、自立活動
4 目標 (ねらい)	(1) 聖火リレートーチに触れる体験学習等 ・オリンピック・パラリンピック競技にちなんだ運動を通して、楽しみながらいろいろな体の動きを体験する。【小】 ・オリンピック・パラリンピック競技について、調べたり、まとめたりすることで、意義や歴史について学び、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高める。【中高AB】 ・オリンピック・パラリンピック競技にちなんだ運動を通して、楽しみながら体の動きを体験する。【中高C】 (2) 愛知ポッチャキャラバンの講演・実技指導 ・選手と接することで、スポーツの魅力を味わい体験する。【小】 ・選手の話聞くことで、競技の魅力、目標に向かうために必要な力を学ぶ。【中】 ・障害者アスリートと接することで、競技に向かう精神力と課題克服の方法を知る。【高】
5 取組内容	(1) 聖火リレートーチに触れる体験学習等 ・聖火リレートーチ（本物）を聖火ランナーの方からお借りし、実際にトーチに触れたり、手に持ったりすることで、実際の重みや大きさ、光沢や威厳などを体感した。(写真1)【小中高】 ・実際にトーチに触れたことや、聖火リレーのテレビ中継を見たりすることで、聖火リレーに見立てたやり取りとして、模擬リレートーチを作り、リレー形式で友達との関わりを楽しんだ。【中B】



写真1 トーチ体験

- 聖火リレートーチの製作工程や大会憲章、正式種目、五輪マークやエンブレム、マスコットなどについて調べたり、まとめたりする学習に取り組んだ（写真2、3）。オリンピック・パラリンピック競技について知り、これまで知らなかったスポーツに触れ、オリンピック・パラリンピックを身近に感じたり、興味・関心をもったりすることができた。【中高AB】



写真2 五輪マークについての学習



写真3 調べ学習のまとめ

- オリンピック・パラリンピック競技にちなんだ、走る、跳ぶ、またぐ、くぐる、投げるなどを取り入れた運動に取り組んだ（写真4）。【小】



写真4 アーチェリーに見立てた的当ての様子

(2) 愛知ポッチャキャラバンの講演・実技指導

- 愛知ポッチャキャラバンに来校を依頼し、ポッチャ競技日本代表選手（河本選手、江崎選手）のパラリンピック出場時の感想や実技披露、メダル披露を含めた講演を聴いた（写真5）。なお、会場の人数制限、テレビ会議システムを利用した中継、換気や消毒など行うことで、新型コロナウイルス感染症予防対策を施しながら実施した。【小中高】



写真5 実技披露の様子


- 実際にポッチャボールを投げる実技体験を行った。河本選手、江崎選手にアドバイスをもらいながら、一人ずつジャックボールに向けて投球する体験をすることができた（写真7、8）。【小中】



写真7 小学部の様子



写真8 中学部の様子

	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部代表生徒と選手のペアが2チームに分かれて試合を行った。対戦は、緊張感があり、高い技術戦術を同じコート戦で体感することができた。(写真9)【高】  <p style="text-align: center;">写真9 高等部の様子</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>(1) 聖火リレータッチに触れる体験学習等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の程度に関わらず、本物のタッチに触れることで、重みや大きさ、肌触り、輝きなどを五感で感じることができた。 【小中高】 ・オリンピック・パラリンピックの正式種目、五輪マーク、エンブレム、マスコットなどについて、意味を知ったり、楽しみながら興味・関心を高めたりすることができた。テレビで中継される競技の様子と学習したことを結び付け、オリンピック、パラリンピックに関心を向けることができた。【中高AB】 ・選手個人にメッセージを送りたいなど、障害者アスリートへの興味が増した。【中高AB】 ・タッチの製作工程などの調べ学習をきっかけに、大会憲章や地元選手を知ることができた。【高AB】 <p>(2) 愛知ポッチャキャラバン講演・実技指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピック(ポッチャ)の出場者やメダリストに直接講演を聞いたり実技指導を受けたりすることで、選手を祝う気持ち・応援する気持ちが大いに増した。【小中高】 ・障害者スポーツを知り、社会参加意識が高まった。地域の社会福祉協議会主催のポッチャ大会への個人申し込みが増えた。 【中高AB】 ・障害者の生活に興味をもつきっかけとなった。【高】
<p>7 実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科や各教科を合わせた指導での学習だけでなく、掲示物を作製したり、校内にポスターを掲示したりし、学校生活全般で、オリンピック・パラリンピックに興味をもてるよう取り組んだ。 ・「タッチに触れる体験」→大会期間中に「オリンピック・パラリンピックの感想文などのレポート課題」→「大会後に選手の来校・実技講演」→「来校後に地域のレクリエーションポッチャ大会への参加」と年間を通じた継続的な指導を計画し取り組むことができた。 ・「日本代表選手の実技・講演」では、5時限小・中学部ABスタディが参加し、一人ずつポッチャのボールを投げる体験型の講演にした。選手に直接アドバイスを受けるなど距離感が近く、全員が選手と交流することができた。 ・6時限高等部ABスタディは、生徒も含めた試合参観型にした。パラリンピック入賞、銀メダル選手との対戦は、緊張感があり、高い技術戦術を同じコート戦で体感することができた。 ・小・中・高等部Cスタディは、Web会議システムを使用して各教室から見学した。 ・事前、事後指導の充実を図った。パラリンピックの試合を授業の

	<p>中で教材として扱うことで、パラリンピック選手の来校に期待感を高めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> •パラリンピック選手が来校すること知ること、横断幕を作ったり応援グッズを作ったりし、パラリンピックへの興味・関心を高めることができた。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> •「聖火リレータッチに触れる体験」は、感染症対策を十分に行い、全校幼児児童生徒が体験することができた。 •「日本代表選手の講演・実技指導」は、訪問団体の指定の時間内で工夫して実施したが、一部幼児児童生徒は、リモート視聴もしくは後日動画視聴となった。ICT機器の活用や事前事後指導をもう少し計画的に行うことで、パラリンピック日本代表を身近に感じる機会を設定できるようにしたかった。
9 来年度以降の実施予定	<p>今後も、講師による実技や講演を聞く機会を設定していくことを予定している。(保健体育)。</p> <p>本校は、令和2年度ボッチャ甲子園優勝、令和3年度シード校としてボッチャ甲子園本大会出場が決まっている。身近な競技としての障害者スポーツ「ボッチャ」に取り組み、今後も継続的にオリンピック・パラリンピック教育を実施していきたい。そこから「ボッチャ」を一つの手段とし、卒業後の夢や希望、障害者の社会参加や自立に向けた指導につなげていきたいと考えている。</p>